



富澤 一弘 教授

【とみざわ かずひろ】

東京都出身。平成7年度、本学着任。教授、博士（「学術学」）。専門は、「日本経済史学」、「日本史学」。著書・論文はきわめて多数で、頁数は既に1万頁を越えている（主要業績は、本学図書館に架蔵）。

- 日本近世経済史
- 日本近代経済史
- 日本近世農業史

原資料から日本経済に迫る

私は、「日本経済史」について学部1年生から大学院博士後期課程の院生にまで、講義しております。特に私が専門としておりますのは、江戸時代から昭和初期までの日本蚕糸業史、日本貿易史であり、原史料、原文書を活用した実証的研究を四半世紀以上、継続して参りました。

またあわせて、前近代の日本農村の生活史についても、関心を有しており、その方面での研究も多数に及んでおります。

従って私のゼミナールでも「日本経済史」「日本農村生活史」を中心とする分野の研究を奨励致しておりますが、学生諸君の興味関心に応じて、実際には、近世・近代日本史学一般についても、講述致しております。即ち戦国時代から大正・昭和初期まで、幅広く取り扱っております。そして、学生・院生に対しては、オリジナルの史料・文献にもとづく特色の強い研究を求めて、2年間乃至、数年間の指導を行わせて頂いております。

それ故「日本経済史」「日本農村生活史」そして「日本史学」に知識や関心を有する皆様のゼミナール参加を強く御奨め申し上げたく存じ上げます。プロの研究者、教職員等の輩出する本ゼミナールで、学部・大学院生活の粋をさわめる諸君の参加を切に願っております。

このゼミナールでは、「日本経済史」「日本史学」関連の研究を自由に行うことができます。

ただし、時代は、戦国時代～昭和初期中心です。なまの古文書や古い刊行物、そして明治～大正期の新聞記事等を使った独創的研究が、毎年、卒論・修論を飾ります。経済史や歴史に興味あるみなさん、このゼミナールと一緒に学びませんか。充実の数年間を送ることを請け負います。

(2010年 大学院経済・経営研究科博士後期課程入学)
佐藤 雄太

ゼミ生のひとこと

